

新聞圖會 第十二号



千住宿の大磯村に孫兵衛との百姓の両親もあり
 女房もあり九歳ある娘もあり身で
 のりあざ此せり放蕩にじめ女房や酒と
 遊びまわけて家より戻さぬぬの両親の
 心配一あさき年より夫婦がこころあ
 うて嫁が氣まひぬのであろうと嫁とまはして
 自分のまらしく女をいささか定めておとどけ
 ありあめうささかて居ふと九歳ある娘の
 おのが聞いて居てかよへん家へ出さるゝ大
 變ごと年九つでも大きき心配してどが父上
 の放蕩がさるゝやと天神うぬ一心願うけて毎日
 飯一粒も食はざんやせて眼がくぐみ歩行もヒヨロ
 くりとわらへ家内心配して醫者まうけても薬も香も
 ねいゝ色が悪くも更孫兵衛も我子孫子とふん思ひあ
 るあざと賞はて是と喰といひやも食はぬの大いはいり娘
 とついでにばりばりののびやつと願うあが其やあはちやあ
 け外が父上の放蕩がさるゝぬと女房が去るまゝとあさきと聞て
 天神さ願うけて父上の放蕩がさるゝやと二七日のあひ何れ
 せんせぬと聞て家内ひせり孫兵衛も娘と本心
 あり娘のちりは三年酒をやめて娘は食はせしむる



のちの事

